明けまして おめでとうございます

皆様には良き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
院長就任後初めての新年を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年度を振り返れば、超音波診断機器 7 台の更新、臨床検査機器の全面的更新さらには消化器内視鏡センターの新設というように高度先進医療提供の土台ができました。所信表明で職員一丸となって“強い病院”を目指すことを宣言しました。救急医療や日常診療はもとより高度先進医療に強い病院、市民ならびに地域医師会から強い信頼の病院、臨床研修病院として教育に強い病院、職種横断的ならびに診療科横断的連携で構築された強いチーム医療の充実を目標に、大津市民病院ブランド力向上を目指しました。しかし、昨年秋の度重なる不祥事の発覚後、病院機能不全が一時危惧されましたが、市民皆様方からの心強い応援と職員の強いプロ意識に支えられて『患者中心の質の高い医療 』を遂行できたことは、ひとえに皆様方のおかげと篤く感謝申し上げます。不祥事を契機に本院が抱える構造的問題点と克服すべき課題も見えてきました。今こそ、本院がさらに成長し続けるチャンスであると認識を新たにしています。

グローバルに混迷の度合いが深まる“変化の時代”にあって、医療の現場においても社会的視点と主体的力量が問われる時代であると痛感します。加速度的な高齢化社会、疾病構造の変化、医療技術の高度化、あらゆる情報の共有化などに伴い、地域医療における患者のニーズはますます高度化、多様化しています。一方、新たな診療報酬改定においては病院機能の多角的チーム医療の充実が強く望まれています。病院経営に簡単な公式はありません。当たり前のことを当たり前にできる病院だけが生き残る方程式が見えてきました。
今年は病院改革プラン 3 年目の最後の年を迎えようとしています。このような“変化の時代”にあって生き残りをかけた経営戦略の方向性を展望すれば、医師はもとより病院職員全員が果たすべき役割は“心豊かな結いの医療”においてはじめて発揮される公式が見えてきます。

市民に愛され、信頼されて選択される病院、すなわち『市民とともにある市民病院』の方向性をさらに模索したく存じます。職員一丸となって、すべてが医療人として自らの職種のプロ意識と“結いの医療”に根ざした“患者とともにある全人的医療”の遂行に向けて邁進する所存であります。聴す（ゆるす）ことと念う（おもう）ことを心に刻んで、皆様のお知恵を戴き胸の張れる大津市民病院ブランドの夢を次世代に繋いで行けるように真摯に熱意を持って歩んでいきたく存じます。

新しい年が皆様にとって、幸多い年でありますように祈念して、新年のご挨拶と致します。

平成 23 年　新春
院長　片岡慶正